

あとがき

編集顧問

越智隆弘
小野啓郎
竹光義治
守屋秀繁
山室隆夫
矢部 裕

編集委員

糸満盛憲
荻野利彦
菊地臣一
黒坂昌弘
清水克時
高岸憲二
富田勝郎
戸山芳昭
吉川秀樹

編集同人

井形高明 澤村誠志
生田義和 杉岡洋一
井樋栄二 田辺剛造
岩田 久 田畑四郎
岩本幸英 玉置哲也
大井利夫 中村耕三
小野村敏信 馬場久敏
加藤博之 浜西千秋
金田清志 廣谷速人
黒川高秀 佛淵孝夫
腰野富久 三笠元彦
紺野慎一 三浦隆行
榊田喜三郎 持田譲治
酒匂 崇 山田治基
桜井 実 吉川靖三

春爛漫、満開の桜が咲く校庭。典型的な日本の風景です。欧米などでは9月に新学期を迎えるところが多いようですが、わが国で4月が新学期となった起源は、1886(明治19)年10月に、高等師範学校が学年暦を4月1日からと定め、それが全国の学校に広がってからだそうです。明治のはじめには、欧米にならって9月始まりのところもあったようですが、農業国であったわが国の会計年度を、米の作付けが始まる前の4月で区切るようになりました。それにあわせて、軍隊への入隊時期が4月になります。師範学校の入学が軍隊よりも半年遅いと、優秀な若者が軍や士官学校にとられてしまいます。それではということで、それまで9月始まりだった高等師範学校を、4月始まりに変更したというのが4月新学期になったいきさつだそうです。

ことの起源はともかく、4月新学期が定着したひとつの理由は、この時期が桜の開花と一致していたからではないでしょうか。桜が一度に咲いて、一度に散る様は、卒業から新入学へとつながる人生のドラマとよく合っています。学校のドラマの背景として桜がふさわしいからこそ、4月新学期という伝統が続いてきたのではないかと思います。

菅野伸彦教授の視座「運動器の医工連携」では、医学と工学の交流を男女の恋愛関係にたとえておられます。インターネットの時代だからこそ、学会や学校に、人と人が出会う場としての意味があるのだと思います。本号の論述は4本とも脊椎関係ですが、いずれも専門家だけでなく一般整形外科医にもお読みいただきたいテーマです。本号から始まる連載「周術期感染対策の基本」は、手術の合併症として最も重要なSSI(Surgical Site Infection)についての連続講義です。2009年新学期の「臨床整形外科」にはこれら企画をはじめとして、貴重な論文が満載です。

(清水克時)

臨床整形外科 (第44巻第4号)

2009年4月25日発行(毎月1回25日発行)

定価 2,520 円(本体 2,400 円+税 5%)

[2009 年 ぎ め 予 約 購 読 料 29,400 円, Medical Finder
パーソナルオプション付 38,300 円(配送料弊社負担)]

E-mail rinseige@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinseige>

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 編集室直通 (03)3817-5702(担当:石井・山崎)

販売部直通 (03)3817-5659・5660

ファクシミリ (03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 (株)アイワード 電話 (011)241-9341

広告申込所 (株)医薬広告社 電話 (03)3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 2009, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

・JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の承諾を得てください。